

AKIBA ホールディングス

2019年3月期 決算説明資料

2019年7月

1. 2019年3月期通期決算
2. 2020年3月期業績予想
3. セグメント別概況
 - ①メモリ製品製造販売事業
 - ②ウェブソリューション事業
 - ③通信コンサルティング事業
 - ④HPC事業
4. 第4四半期概況
5. 総括
6. 参考資料

※ 資料中の数字の単位は、記載のないものはすべて百万円

1. 2019年3月期通期決算

【セグメント】

メモリ製品製造販売

株式会社アドテック

電子部品、コンピューター関連の開発・製造・販売

2019年7月1日に株式会社バディネットに事業移管、2020年3月期第1四半期末をもって廃止

ウェブソリューション

株式会社エッジクルー

オープン系システム開発・保守 SES

通信コンサルティング

株式会社バディネット iconicStrage株式会社

株式会社モバイル・プランニング

BPOサービス コールセンター Wi-Fiルータレンタル

HPC

株式会社HPCテック

高度計算機の開発・製造・販売

2018年2月20日に子会社株式を売却、2018年3月期第3四半期末をもってを廃止

コンテンツ

株式会社ティームエンタテインメント

CD の企画・制作・販売、コンテンツカフェの運営

1. 2019年3月期通期決算

【概況】

連結業績

売上高100億円超え、当初業績予想を大幅超過

売上高：11,420 前期比：128.1% 予想比：120.2%
営業利益：429 前期比：395.2% 予想比：358.0%

メモリ製品製造販売

メモリ販売大幅増加、原価率低減、IoT事業規模拡大

売上高：6,863 前期比：121.0%
営業利益：186 前期比：328.2%

ウェブソリューション

減収も事業構造改革により収益性大幅改善

売上高：57 前期比：60.8%
営業利益：▲20 前期比：—（17改善）

通信コンサルティング

BPOサービス大幅増収増益、コールセンター収益改善

売上高：2,706 前期比：171.5%
営業利益：98 前期比：5,224.3%

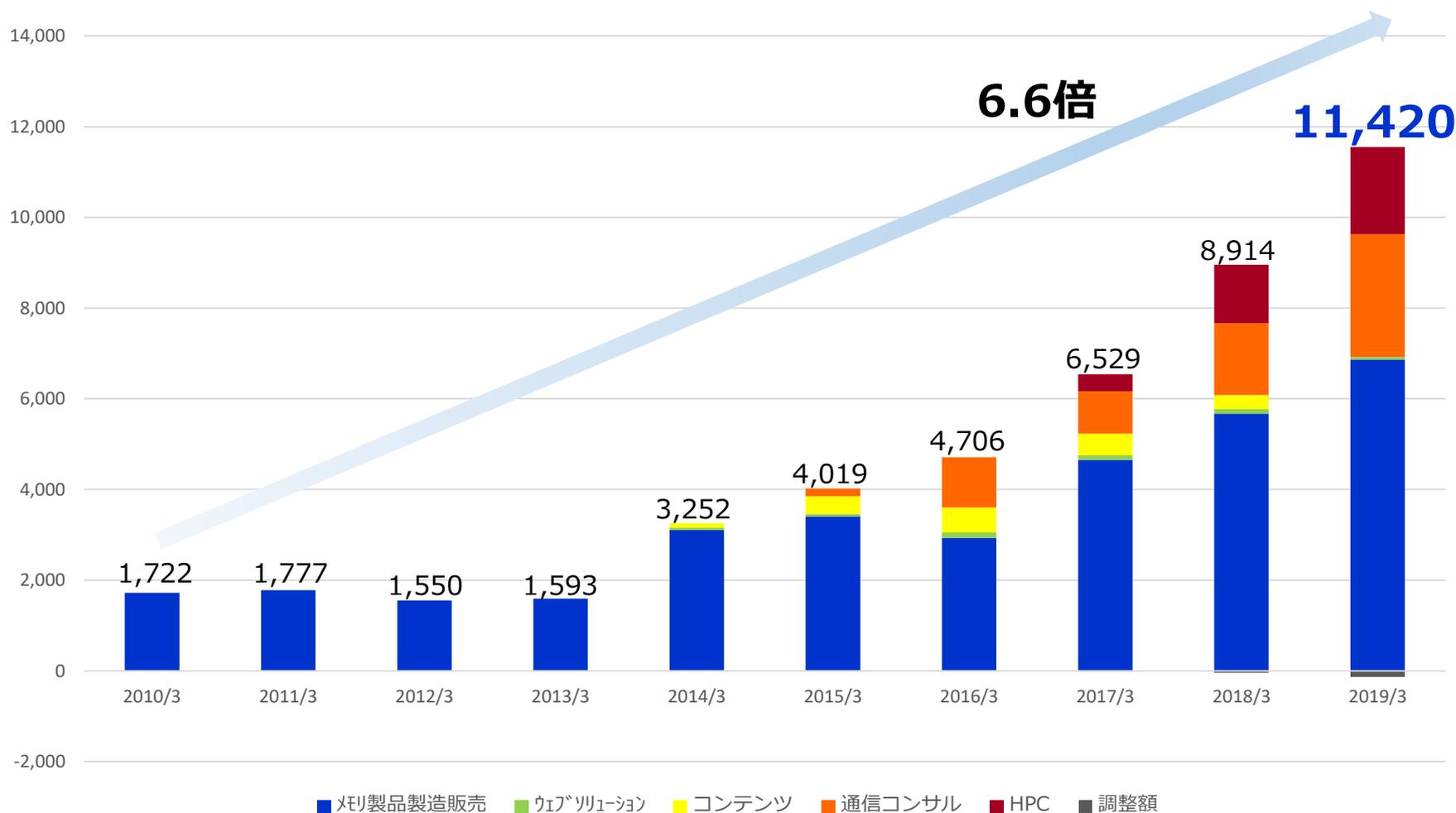
HPC

大口案件獲得、販路拡大で大幅増収増益

売上高：1,925 前期比：148.8%
営業利益：187 前期比：184.0%

1. 2019年3月期通期決算

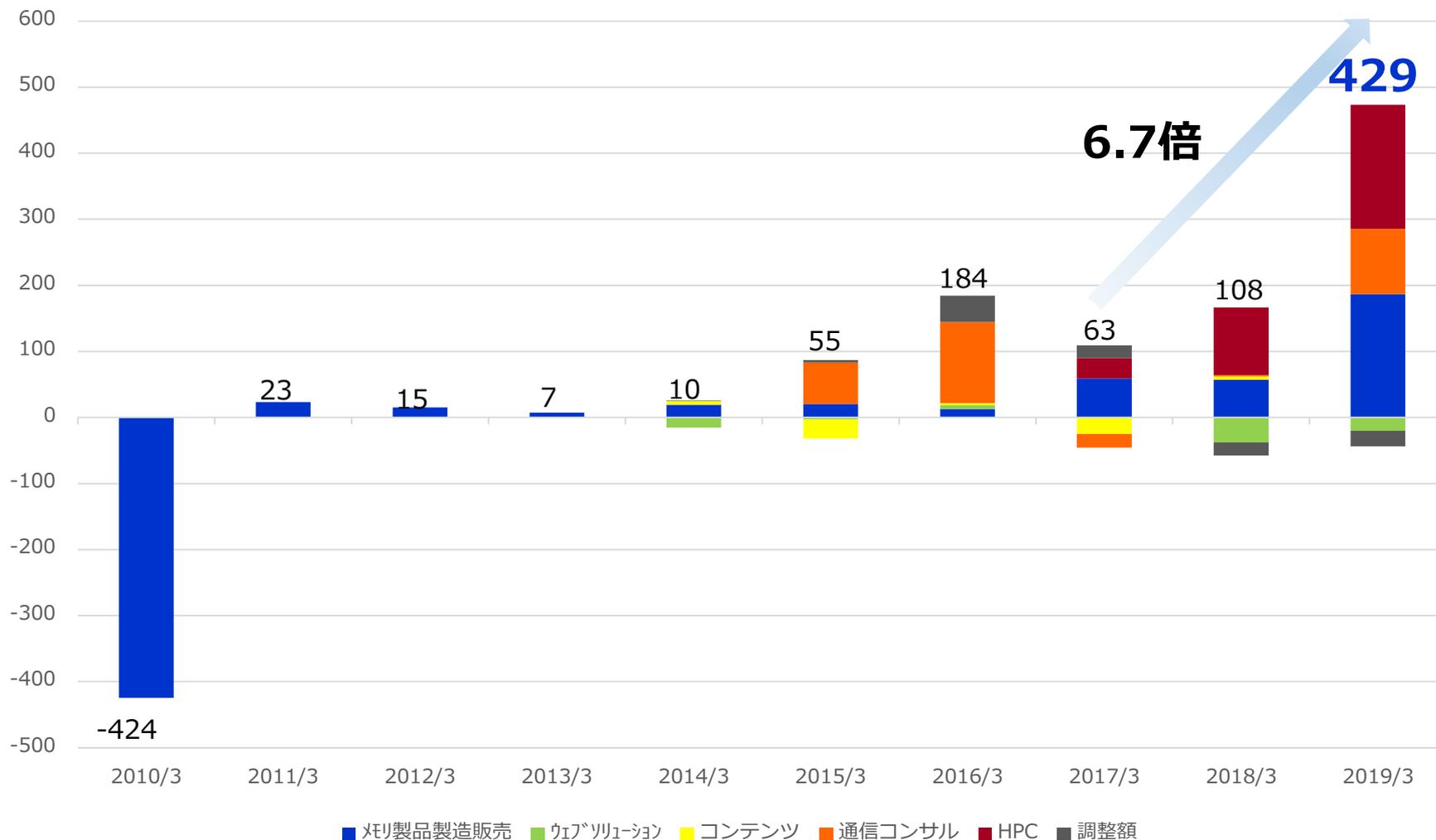
【連結売上高】 過去10年で最高、2010年3月期の6.6倍



- ※ 2013年3月期まではアドテック（メモリ製品製造販売）単体
- ※ 2016年3月期第3四半期からホールディングス化
- ※ 調整額はセグメント間の内部売上高または振替高

1. 2019年3月期通期決算

【連結営業利益】 過去10年間で最高、2期連続増益、6.7倍

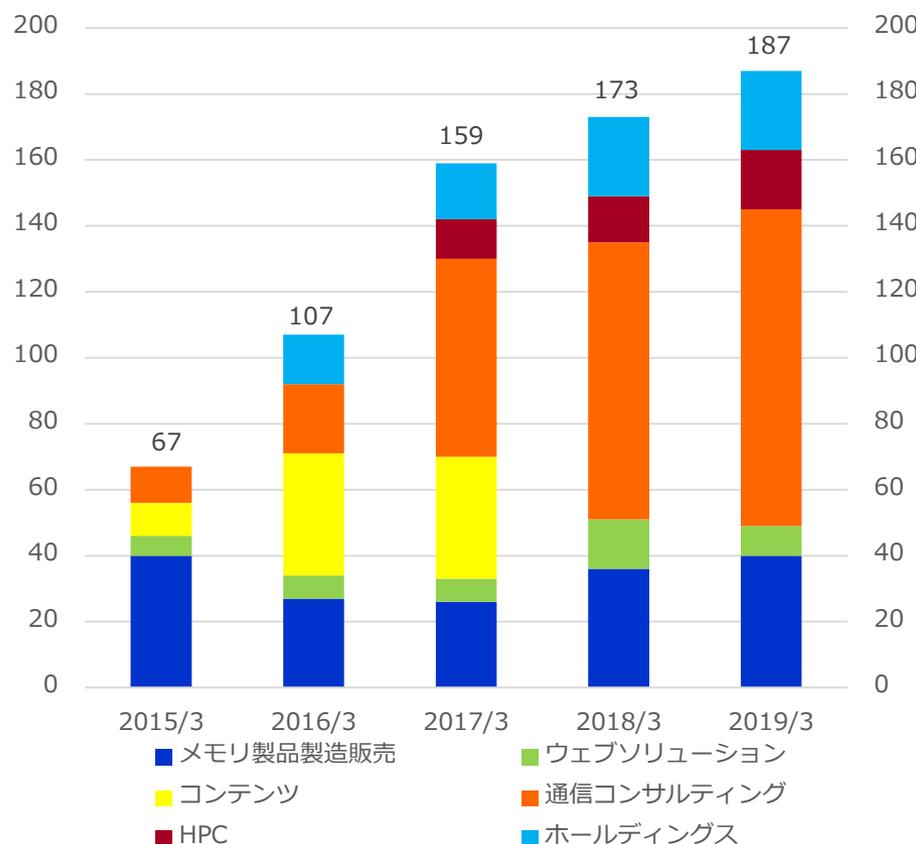


※ 調整額は主に報告セグメントに帰属しない人件費および一般管理費、持株会社に対する経営指導料等の消去

1. 2019年3月期通期決算

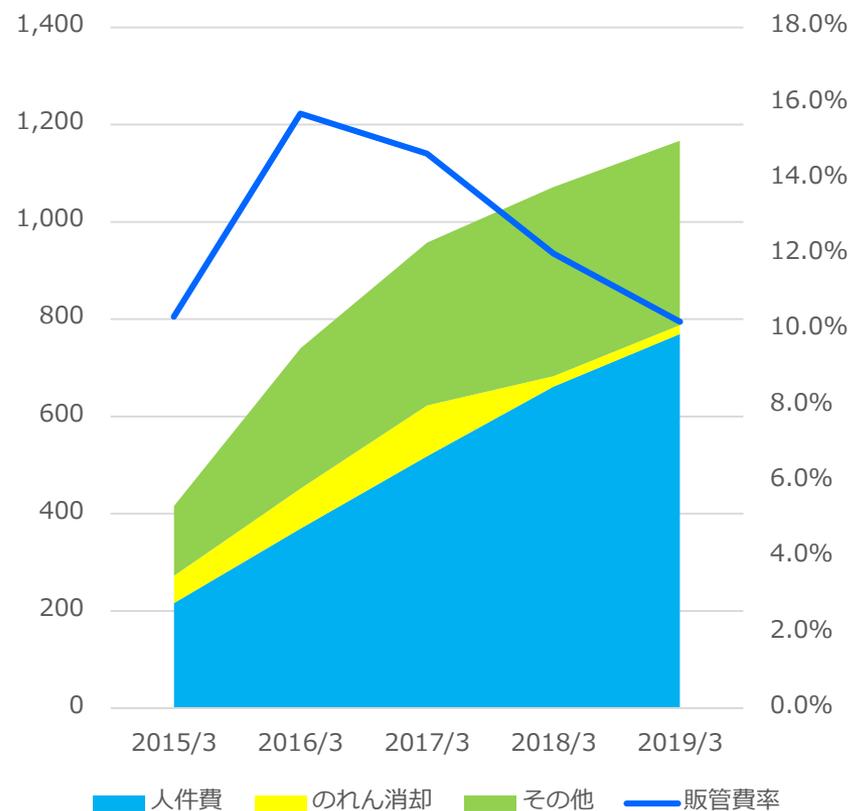
【役職員数】

成長を支える人材確保に注力、人材不足の環境の中、事業、管理共に着実に増員



【販売管理費】

体制強化で上昇した販管費を事業規模拡大で吸収、販管費率は5年間で最低



※ 各年度末実績、役職員 = 役員、正社員、契約社員、アルバイト

※ 人件費 = 各種給与、役員報酬、各種賞与、退職金、通勤交通費、採用費、教育費、福利厚生費（各引当金含む）

1. 2019年3月期通期決算

【貸借対照表】

	2018年3月期	2019年3月期	前期比	トピックス
流動資産	3,250	4,883	150.2%	・売上増加による、売掛債権、買掛金の増加にともない、流動資産、流動負債とも増加
現預金	1,021	1,577	154.4%	
売掛債権	1,455	2,381	163.6%	
固定資産	190	228	120.4%	・事業規模拡大を支えるための資金調達により長短（一年以内長期含む）借入金増加、財務キャッシュプラスで現預金増加
のれん	47	29	61.3%	
資産合計	3,440	5,112	148.6%	・のれん償却進む
流動負債	2,397	3,611	150.6%	
短期借入金	1,142	1,905	166.8%	
買掛金	811	1,009	124.4%	・人員増加への対応、事業所拡大等により、有形固定資産増加
固定負債	186	352	189.3%	
長期借入金	159	315	197.3%	
負債合計	2,583	3,963	153.4%	・利益増加で利益剰余金マイナス減少
株主資本	798	1,042	130.7%	
資本金	700	700	100.0%	
利益剰余金	▲372	▲127	34.3%	
負債・純資産合計	3,440	5,112	148.6%	

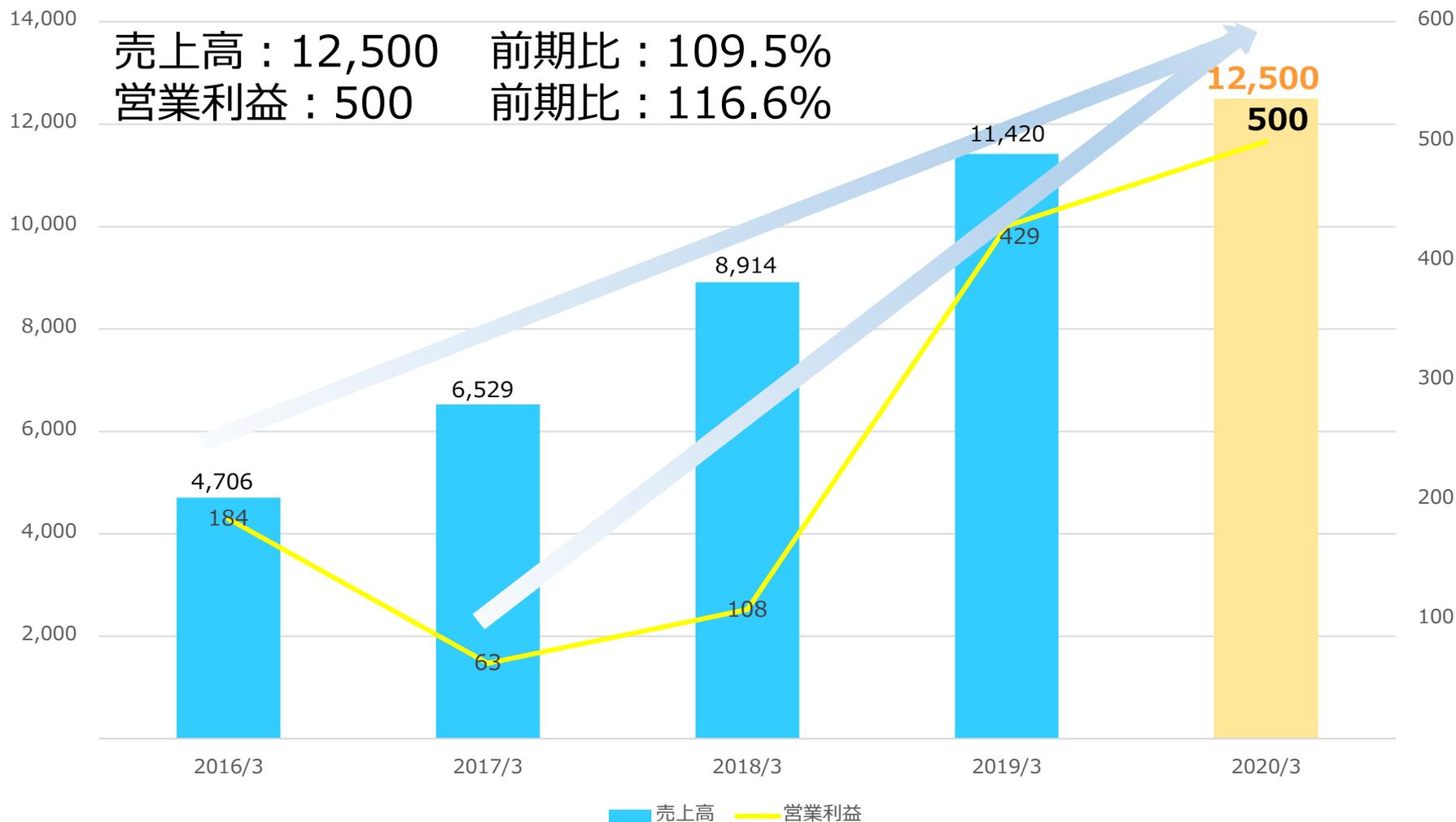
1. 2019年3月期通期決算

【損益計算書】

	2018年3月期	2019年3月期	前期比	トピックス
売上高	8,914	11,420	128.1%	<ul style="list-style-type: none"> ウェブソリューション事業を除くセグメントで大幅増収増益、ウェブソリューション事業も収益性は改善 人件費、広告宣伝費、地代家賃等中心に、事業規模拡大に伴い販管費増加も、売上総利益の増加率を下回り大幅営業増益 営業外、特別段階に特段の動きなく、支払利息等定常的な取引のみ HPC事業比率増加で、非支配株主帰属当期純利益増加
売上原価	7,734	9,823	127.0%	
売上総利益	1,180	1,596	135.3%	
販売費および一般管理費	1,071	1,167	108.9%	
営業利益	108	429	395.2%	
営業外収益	110	34	31.5%	
営業外費用	43	37	87.1%	
経常利益	175	426	242.5%	
特別利益	40	0	—	
特別損失	112	0	—	
税金等調整前当期純利益	103	426	413.0%	
法人税等合計	91	134	148.1%	
当期純利益	12	291	2,400.3%	
非支配株主に帰属する当期純利益	30	46	153.8%	
親会社株主に帰属する当期純利益	-18	244	—	

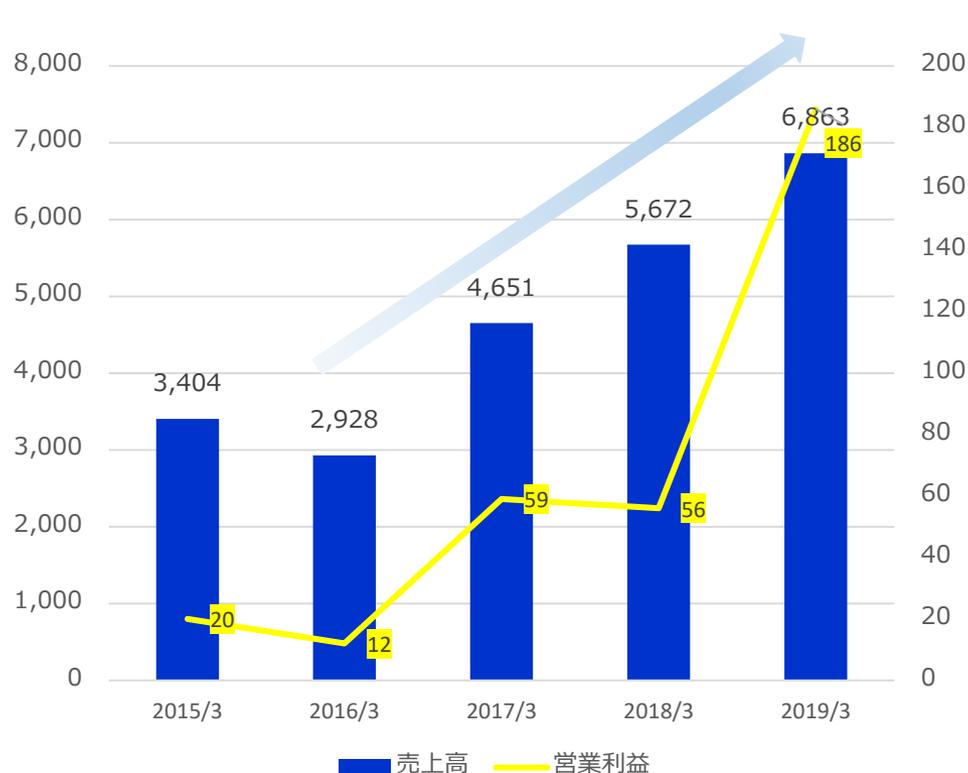
2. 2020年3月期業績予想

【業績予想】 重点分野への資源の集中で持続的な成長を実現



3. セグメント別概況

【メモリ製品製造販売事業】



【トピックス】

2019年3月期実績

- ・IoT事業、量産拡大し収益貢献本格化
- ・AMD製CPU、新製品発売あり続伸
- ・メモリ全般、原価率低減で利益率向上

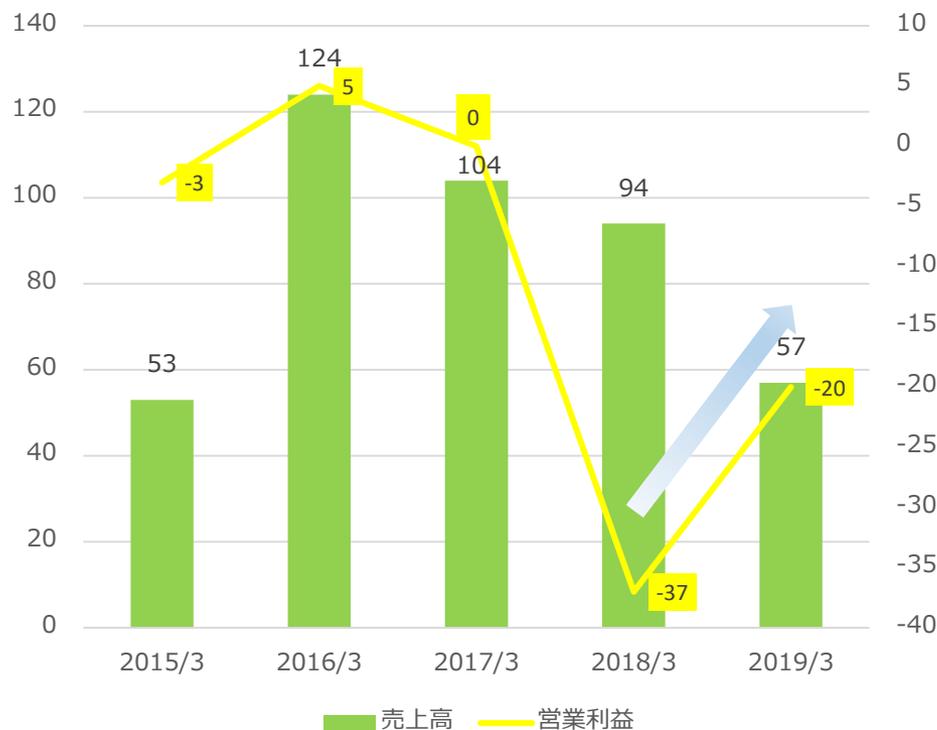
2020年3月期予想

- ・IOT事業、新規案件獲得で拡大見込
- ・AMD製CPU、新製品発売、販路拡大で続伸見込
- ・Windows7サポート終了および消費税率変更によるPC買い替え需要でコンシューマPC向けメモリ販売数増加見込

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	2019年3月期	前期比
売上高	4,651	5,672	122.0%	6,863	121.0%
営業利益	59	56	94.9%	186	328.2%

3. セグメント別概況

【ウェブソリューション事業】



【トピックス】

2019年3月期実績

- ・ 人員の適正化進みコスト減少
- ・ 確実に売上総利益が確保できるSES事業に集中
- ・ SES事業のエンジニア採用、育成進む

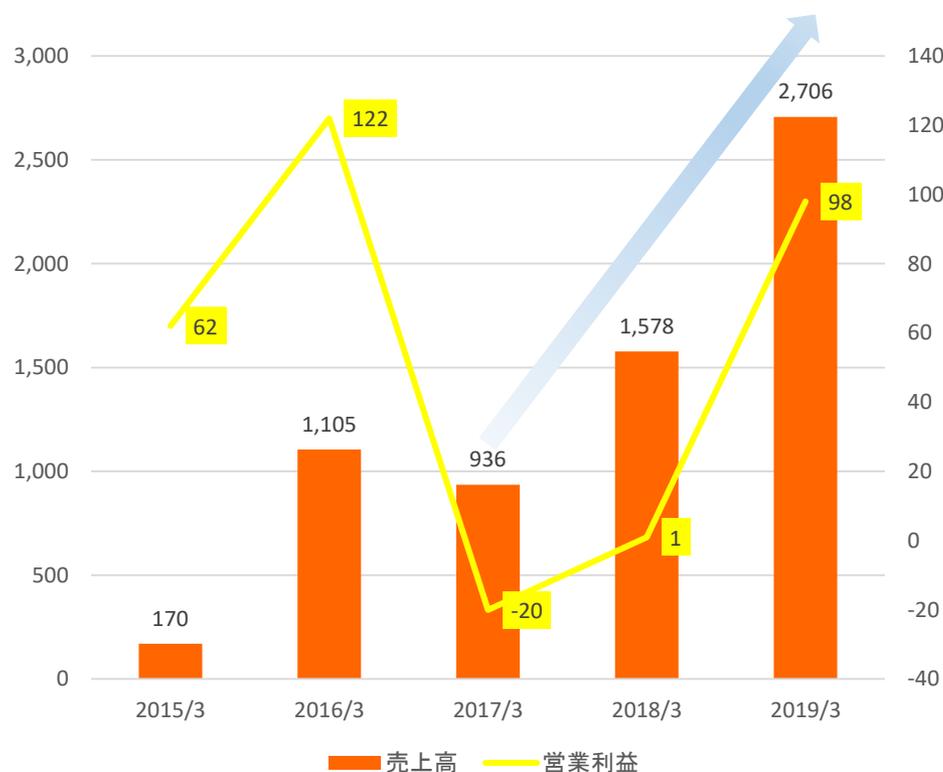
2020年3月期予想

- ・ 引き続きSES事業のエンジニア採用、育成に集中
- ・ コスト、シナジーを最適化するため株式会社バディネットへ事業移管、通信コンサルティングセグメントに統合

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	2019年3月期	前期比
売上高	104	94	90.4%	57	60.8%
営業利益	0	-37	—	-20	—

3. セグメント別概況

【通信コンサルティング事業】



【トピックス】

2019年3月期実績

- ・通信キャリア向け電波対策事業中心にBPO拡大、前期比約210%
- ・wifiルーターレンタルおよびMVNO、景気安定で売上拡大
- ・コールセンター、事業効率化で収益性改善

2020年3月期予想

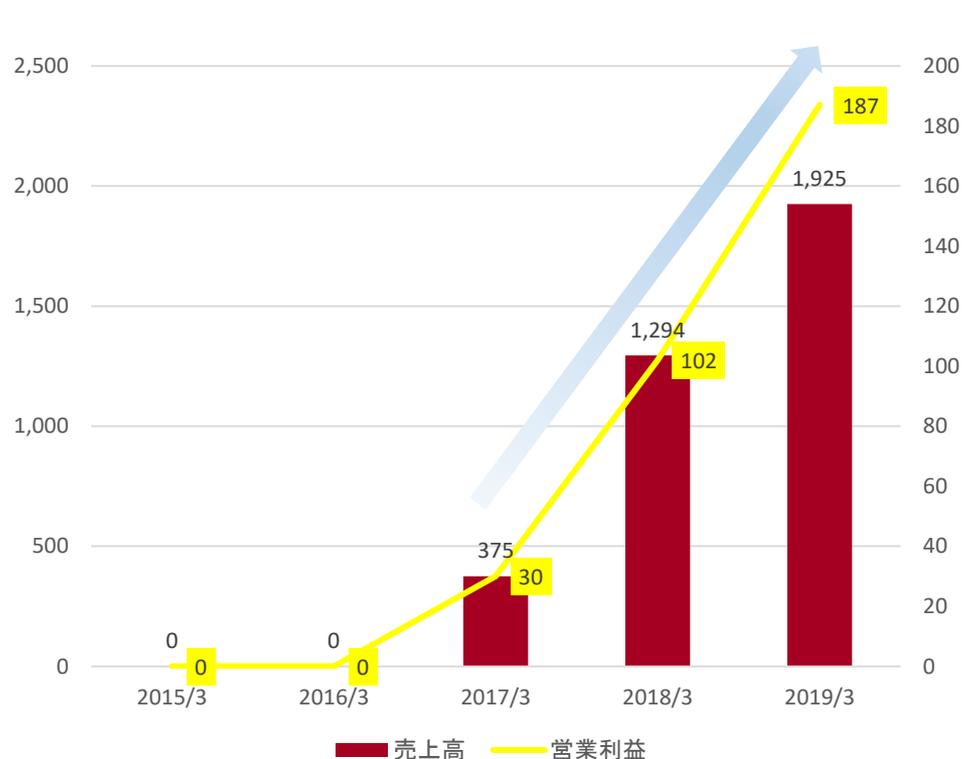
- ・5G 導入見据え、BPO事業拡大、大幅増収増益見込
- ・東京オリンピックに向け、Wi-Fi 需要増加で売上安定見込
- ・コールセンター、インフラ整備で事業規模拡大見込

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	2019年3月期	前期比
売上高	936	1,578	168.6%	2,706	171.5%
営業利益	-20	1	—	98	5,224.3%

※ 2015年3月期第4四半期から結対象

3. セグメント別概況

【HPC事業】



【トピックス】

2019年3月期実績

- ・ 事業規模拡大を支える人員の増強を進める
- ・ 内部体制強化進め、ISO9001および14001取得
- ・ 大型案件受注で大幅増収

2020年3月期予想

- ・ さらなる事業規模拡大を支える人員の増強、内部体制強化継続
- ・ 人材開発、営業チームの競争力強化に注力
- ・ AI、ディープラーニング関連市場引き続き拡大の見通

	2017年3月期	2018年3月期	前期比	2019年3月期	前期比
売上高	375	1,294	345.1%	1,925	148.8%
営業利益	30	102	340.0%	187	184.0%

※ 2017年3月期第4四半期から結対象

【総括】

2019年3月期においては、業務管理体制の強化、人員の増強に努め、主に、既存事業の拡大に注力し、当初業績予想を大幅に超える実績となりました。

2020年3月期においては、IoT事業、通信キャリア向け通信建設事業およびHPC事業中心にリソースを集中投入し拡大を図るとともに、既存事業の効率化および有望な周辺事業領域への進出を進め、業績予想の達成を目指してまいります。

	実績	実績	実績	予想	予想
	2018年3月期	2019年3月期	前期比	2020年3月期	前期比
売上高	8,914	11,420	128.1%	12,500	109.5%
営業利益	108	429	395.2%	500	116.6%
経常利益	175	426	242.5%	500	117.4%
親会社株主に帰属する当期純利益	-18	244	—	300	123.0%
一株当たり当期純利益	-19.75円	266.61円	—	326.53円	122.5%

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報および当該情報に基づく仮定に依拠しているため、リスクや不確実性を含んでいることから、実際の業績等は様々な要因により業績見通し等とは異なる可能性があり、当社がその実現を約束するものではありません。

AKIBAホールディングス会社説明

AKIBA-HOLDINGS GROUP



通信関連ソリューション

B.P.O.

IoT分野における
総合ソリューション

ハードウェアソリューション

ソフトウェアソリューション

ADTEC Buddy Net MOBILE PLANNING

iconicStorage

HPC TECH
High Performance Computing Technology

コールセンター

全国の営業網

施工・保守部隊

キッティング

ソフトウェア開発

ハードウェア開発

コンサルタント



電子部品およびコンピューター関連の開発・製造ならびに販売事業
産業・工業用ならびに一般向けパソコン用およびサーバ用増設メモリモジュールの他、フラッシュメモリ製品の企画・製造・販売、IoTデバイスの製造販売事業を行っております。高度な技術力と信頼性が求められるハイエンド製品にも注力し、多様化するお客様のニーズに応えるため、独自の技術開発力に基づいた高品質・高付加価値な製品を市場に提供しています。



BPOサービス事業およびMVNO事業のコンサルティング事業
通信キャリアを主とする顧客のビジネスの課題やニーズを的確に分析して課題を解決する、BPOサービス、ビジネスインテグレーション事業を展開しております。また「通信」をキーワードとしたソフトウェア・ハードウェアの開発を行ってまいりました。



Wi-Fiルーターレンタル事業およびMVNOコンサルティング事業
エンドユーザー向けWi-Fiルーターレンタル事業、およびMVNO事業に関するコンサルティング事業を行っております。通信キャリアとMVNO社（お客様）の間に再販業者として仲介することで、それぞれのお客様のステータスやニーズに応じた細かなコンサルティング、柔軟なご提案を提供しております。



コールセンター事業
顧客の問合せに対応するインバウンド、顧客に営業をかけるアウトバウンド、双方のサービスを行うコールセンター事業を提供しております。合わせて、アライアンスパートナーと協業し、他サービスやツールを組み合わせ、より高付加価値なソリューションをご提供いたします。



高度計算機の開発・製造ならびに販売事業
主に大学・官公庁の研究開発機関が行う科学技術計算に対応した高性能計算機の開発・製造・販売を手掛け、研究内容によって使用される計算手法、計算能力などに応じて最適なシステムの提案およびインテグレーションを実施しております。

事業概要

商号：株式会社AKIBAホールディングス
(旧株式会社アドテック)

上場市場：東証JASDAQ市場：6840

設立：1983年2月17日

本社：〒104-0045

東京都中央区築地2-1-17陽光築地ビル 7F

Tel：03-3541-5068(代表) Fax：03-3541-5083

<アドテック> 町田R&Dセンター、大阪営業所

<バディネット> 大阪営業所、福岡営業所

<アイコンニックストレージ> 和歌山コールセンター

役員：

代表取締役社長 馬場 正身

取締役 管理本部長 CFO 五十嵐 英

取締役 管理本部副本部長 冨山 理布

取締役 グループ監査室長 後藤 憲保

社外取締役 丸山 一郎

社外取締役 黒部 得善

社外取締役 後藤田 翔

常勤監査役 石本 圭司

社外監査役 西田 史朗

社外監査役 中川 英之

資本金：7億円

売上高：114億円（2019年3月期）

決算期：3月末

事業内容：グループ会社の統括および運営

役員数：187名（2019年3月末日 連結）

会計監査人：KDA監査法人

株主名簿管理人：三井住友信託銀行株式会社

顧問弁護士：原 大二郎

(ライジング法律事務所)

1983年（昭和58年）	2月	株式会社アドテックを設立
1993年（平成5年）	6月	パソコン用増設メモリモジュールの製造販売を開始
1997年（平成9年）	10月	株式額面変更のため株式会社エフ・ケー・インターナショナルと合併
1998年（平成10年）	11月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年（平成16年）	12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所（現、東京証券取引所 JASDAQ（スタンダード））に株式を上場
2013年（平成25年）	5月	株式会社エッジクルー（現 連結子会社）を設立
	7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の現物市場の統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場
2013年（平成25年）	12月	株式会社チームエンタテインメントを買収
2015年（平成27年）	1月	株式会社バディネット（現 連結子会社）を買収。バディネットの完全子会社である株式会社モバイル・プランニングもグループに加える。
	6月	株式会社チームエンタテインメントが池袋にてオトメイトガーデン出店
	10月	株式分割により持株会社体制に移行。株式会社アドテックから株式会社AKIBAホールディングスに商号変更。株式会社アドテック（現 連結子会社）を設立
	10月	株式会社モバイル・プランニングがネットエイジ株式会社のWi-Fiレンタル事業を譲受け
	12月	株式会社AKIBA LABO福岡を設立。福岡県飯塚市においてソフトウェア開発拠点を設置。
2016年（平成28年）	3月	iconic storage株式会社（現 連結子会社）を買収
2017年（平成29年）	1月	HPCテック株式会社（現 連結子会社）を買収
2018年（平成30年）	2月	株式会社チームエンタテインメント株式を売却
2019年（令和元年）	7月	ウェブソリューション事業を株式会社エッジクルーから株式会社バディネットに移管、通信コンサルティング事業に統合
		ミナトホールディングス株式会社と業務提携開始



資本金：1億円
決算期：3月
売上高：68億円（2019年3月期）
代表者：下津 弘亨

メモリ事業領域以外にハイエンド向けサーバー製品の取り扱いを多数準備中、ソフトウェア関連事業との連携も進めております

事業概要

アドテックは、産業・工業用ならびに一般向けパソコン用およびサーバ用増設メモリモジュールの他、フラッシュメモリ製品の企画・製造・販売、IOTデバイス製造販売事業を中心に事業展開を行っています。

また高度な技術力と信頼性が求められるハイエンド製品にも注力しており、市場から高く評価されています。

アドテックは多様化するお客様のニーズに応えるため独自の技術開発力に基づいた高品質・高付加価値な製品を市場に提供し続けます。

メモリモジュール

メモリモジュール製品とは、複数の半導体メモリーチップ（DRAM）、抵抗、コンデンサー、接続端子等を基板に実装したものです。アドテックのメモリモジュールは、汎用品については全てJEDECの標準設計データを使用しております。

またカスタマイズ品においてもJEDECで実際に標準設計データの設計を担当し、そのノウハウを熟知しているからこそ、高速、大容量のメモリモジュールを、標準規格から外れることなく実現しております。

設計精度は、各セットメーカーよりメーカー純正メモリとして採用いただいていることが証明しております

フラッシュメモリ

フラッシュメモリ製品とは、不揮発性（電源が供給されなくても記憶保持ができる）半導体メモリを使用したデータ記憶媒体です。

アドテックのフラッシュ製品群は、SD、コンパクトフラッシュ、CFast、SSDなどすべて規格団体に登録し、最新の情報をもとに安定した製品を開発、供給しています。

産業用途製品は、開発エンジニアによるお客様本位のカスタマイズ、OEM対応も行い、長期安定供給と保守体制を確立し、国内生産でお届けしています（一部の海外生産品も国内で検証）。

汎用品は、大手海外メーカー数社との提携を行い、社内にて評価検証を行い、アドテックが定める品質に合格したものをお届けしています。

Our Solutions



営業サポート

主に通信キャリアのお客様を対象に、確かなリテラシーを持った全国600名のセールsteamが、お客様企業の売上拡大に貢献します。



フィールド エンジニアリング

全国71拠点を足掛かりに、151班の工事部隊が大手通信キャリアの屋内電波対策工事を中心とした各種通信建設工事を確かな技術でサポートします。



BPOサービス (ビジネスプロセスアウトソーシング)

顧客のビジネスニーズを分析、その最適解を構築するビジネス・インテグレーションと、顧客の業務プロセスの設計から運用までをワンストップで請け負うBPO事業を展開。



開発・受託開発 SES事業

IOT・各種センサー等の情報通信機器を中心とした開発と、業務システムの企画・開発・保守といったITサービスの提供並びに技術者人材派遣。

Our Services

Buddy Staffing

(バディスタッフィング)

AKIBAHDLの6事業会社で培ったノウハウと、そこで育成された確かな知識、技術を持った優秀なパートナーをお客様へ提供しています。

事業

主な取り組み

MVNO

- ストック型ビジネスの安定成長
- ニッチ市場に特化したSIM拡販戦略
- AI、IOTを活用したパートナーへの総合提案



レンタル

- Wi-Fiルーターの取扱端末の拡充、SIMの多様化
->>インバウンド需要強化、アウトバウンド参入（クラウドSIM）
- AIクラウド翻訳機など周辺商材レンタル開始



法人

- 法人向けWi-Fiレンタルの認知拡大施策の開始
->>法人をターゲットとしたデジタル広告の配信
->継続利用のクライアントを増やし安定した売上の拡大
- 店舗レンタル拡販のためのアライアンス強化



iconicStorage

アイコニックストレージ株式会社

代表者 代表取締役社長 内藤 城次郎
 設立 2010年6月10日
 資本金 21,728,000円
 事業内容 コンタクトセンター受託事業
 コンタクトセンター構築・運営コンサルティング

免許 一般労働者派遣事業 許可番号/派 13-307200
 有料職業紹介事業 許可番号/13-ユ-308210
 認証取得 プライバシーマーク 第17002730(02)号
 情報セキュリティマネジメントシステム JIS Q 27001:2016

当社は、あらゆる業種業態の事業社からコンタクトセンター業務を受託しております。
 クライアント企業のマーケティングプロセス(市場調査、販売促進、受注、顧客サポート、リピート促進、督促等)に応じ、24時間・365日運営のCRMセンターを活用した、テレマーケティングサービスを総合的に提供しております。
 合わせて、アライアンスパートナーと協業し、他サービスやツールを組み合わせ、より高付加価値なソリューションをご提供いたします。



【事業内容】

主に、高度な科学技術計算機を必要とする大学、研究機関、企業の研究開発部門向けに、科学技術計算分野向けコンピューターの製造、販売を行っております。天気予報、地震予測、自動運転、電子機器や新素材の開発などに用いられ、ビッグデータ解析やAI(人工知能)、ディープラーニング(深層学習)といった分野にも活用されています。

【主要取引先】(五十音順)

会津大学 宇宙航空研究開発機構 大阪大学 海洋研究開発機構 香川大学
 金沢大学 九州大学 九州工業大学 京都大学 近畿大学 慶應義塾大学
 神戸大学 埼玉大学 佐賀大学 産業技術総合研究所 芝浦工業大学
 情報通信研究機構 電磁波計測研究所 成蹊大学 中央大学 中部大学
 筑波大学 電気通信大学 東京大学 東京工業大学 東京農工大学
 東京理科大学 東北大学 鳥取大学 富山大学 名古屋大学 新潟大学
 フローテック・リサーチ 北海道大学 明治大学 立命館大学 早稲田大学 他

製品ラインナップ



デスクトップ
計算機



Xeon Phi
計算機



ラックマウント型
計算機



ポータブル型
計算機



大容量ストレージ
サーバ



サーバメモリ



インフィニバンド



フラッシュ
ストレージ



無停電電源装置



サーバラック
静音ラック

会社概要

社名	株式会社HPCテック HPCTECH Corporation
本社所在地	〒103-0006 東京都中央区日本橋富沢町7-13 洋和ビル4F
TEL	03-5643-2681
FAX	03-5643-2682
設立	2008年10月1日
資本金	1200万円 (資本金準備金600万円を含む)
役員	代表取締役 奥山 義弘
主要銀行	三菱UFJ銀行 春日町支店 普通 0030719



<https://www.akiba-holdings.co.jp/>